2.診断群分類別患者数（診療科別患者数上位 5 位）

症例数の多い DPC14 桁分類(DPC コード)を、各診療科別に集計しました。項目は DPC14 桁分類に対する患者数、平均在院日数(自院･全国)、転院率、平均年齢、 患者用パスの有無で、各診療科別に上位 5 つを掲載しております。

定　義

最終的な自院の退院を持って 1 カウントとする。

●指標に示されるそれぞれの用語は以下の通りです。

◇DPC コード：DPC14 桁分類(DPC コード) 診断群分類を表すコードです。医師によって決定される医療資源を最も投入した傷病名と、一連の入院期間中に行われた 医療行為の組み合わせによって分類されます。その為、医療資源を最も投入した傷病名が同じでも医療行為が違えば DPC コードは 異なります。14 桁の数字は全てに意味をもち、全国共通のコードとして使用されています。

◇名称：医療資源を最も投入した傷病名についてどのような医療行為を行ったかを表します。

◇症例数：10 未満の数値の場合は、ー(ハイフン)で表記。

◇平均在院日数(自院)： 入院中の在院日数を症例毎に集計し、その値を症例数で割った平均値です。

◇平均在院日数(全国)： 厚生労働省より公表されている、全国 DPC 対象病院の令和 7 年度における在院日数の平均値です。

◇転院率：該当する症例数のうち、退院先が「他の病院・診療所への転院」となった患者の 割合です。

◇患者用パス：入院時に患者さんにお渡しするクリニカルパスの略。
クリニカルパスとは、治療や看護の手順を標準化し、診療の効率化を図る入院診療計画で、 検査･治療･手術･ケアなどの内容を時間軸に沿ってスケジュール表(パス表)にまとめたものです (症例によってクリニカルパスは異なります)。患者用パスの「あり」をクリックすると該当のクリニカルパスが表示されます。

【総合内科】(全 85 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき 1 カウントとなります

DPC コード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症	14	13.21	13.42	21.43%	82.86	なし
0400802499x0xx	肺炎等（市中肺炎かつ 75 歳以上）	-	-	16.10	-	-	-
040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎	-	-	20.49	-	-	-
130100xxxxx40x	播種性血管内凝固症候群　トロンボモデュリンあり	-	-	25.37	-	-	-
0400800x99x0xx	肺炎等（市中肺炎以外）	-	-	18.48	-	-	-

解　説

総合内科では多岐にわたる傷病に対して治療にあたっています。特に多いのは高齢の患者様が発症する尿路の感染症です。高齢の患者様は重症化しやすく、入院による治療を行っています。また、肺炎についても同程度の症例数があり、酸素投与等の専門的な治療を行い、状態安定を図っています。

【血液内科】(全 256 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき 1 カウントとなります

DPC コード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
130060xx97x00x	骨髄異形成症候群　輸血等あり	41	2.61	14.74	0.00%	86.51	あり
130050xx97x0xx	骨髄増殖性腫瘍　輸血等あり	28	4.46	15.56	0.00%	86.79	あり
130030xx99x4xx	非ホジキンリンパ腫　化学療法（リツキシマブ）	25	9.20	8.09	0.00%	75.84	なし
130060xx99x4xx	骨髄異形成症候群　化学療法（アザシチジン）	22	10.14	9.88	0.00%	76.64	あり
130030xx99xBxx	非ホジキンリンパ腫　化学療法（ポラツズマブ　ベトチン等）	15	8.47	11.45	0.00%	69.00	なし

解　説

悪性リンパ腫や多発性骨髄腫などの血液疾患は、以前は稀な病気と思われていましたが、近年検査法の進歩に伴い診断される例が増加しております。比較的高齢者に多く見られており、受診のきっかけも発熱、リンパ節腫脹、繰り返す骨折などの強い症状ではなく、健康診断の二次検査から見つかる例もあります。主な治療は抗癌剤治療となりますが、近年新薬の開発が進み、充分戦える病気となっております。当院は高齢者の化学療法に力を入れており、移植を含めた強力な化学療法適応の若年症例は福島県立医大血液内科に紹介しています。

【循環器内科】(全 352 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき 1 カウントとなります

DPC コード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
050130xx9900x0	心不全 手術なし	70	18.27	17.31	14.29%	86.64	あり
110280xx03x0xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全　内シャント血栓除去術等	37	2.03	3.74	0.00%	71.78	あり
050050xx0200xx	狭心症などのカテーテル治療（経皮的冠動脈形成術等 ）	21	3.24	4.12	0.00%	74.14	あり
050170xx03000x	下肢閉塞性動脈硬化症　四肢の血管拡張術・血栓除去術等	19	10.58	5.12	10.53%	73.53	あり
050030xx03000x	急性心筋梗塞（続発性合併症を含む）再発性心筋梗塞 経皮的冠動脈形成術等	15	14.53	11.36	6.67%	69.33	あり
050050xx9910xx	狭心症、慢性虚血性心疾患 手術なし カテーテル治療等あり	15	2.87	3.10	0.00%	70.00	あり

解　説

心不全で入院する患者さんが最も多く、大部分は高齢の患者さんであり重症化しやすいため、在院日数が長くなる場合があります。次に多いものが人工透析を行っている方の透析シャント狭窄・閉塞に対するシャント拡張・血栓除去術を行う入院になります。また緊急カテーテル検査の結果、冠動脈に狭窄等を認め、ステント留置や冠動脈形成術へ移行となる患者さんも多いです。その他に下肢閉塞性動脈硬化症に対する血管拡張術・血栓除去術も多く行っています。

【消化器内科】(全 742 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき 1 カウントとなります

DPC コード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
060100xx01xxxx	大腸ポリープ　ポリープ切除術	189	2.30	2.56	0.00%	66.23	あり
060340xx03x00x	胆管（肝内外）結石、胆管炎 内視鏡的乳頭切開術等	65	7.95	8.76	1.54%	79.72	あり
060380xxxxx0xx	ウイルス性腸炎 手術・処置等なし	28	4.79	5.49	0.00%	48.32	なし
060102xx99xxxx	穿孔又は膿瘍を伴わない憩室性疾患 手術なし	19	6.95	7.58	0.00%	55.11	なし
060190xx99x0xx	虚血性腸炎 手術なし	18	7.22	8.41	0.00%	66.78	なし

解　説

消化器内科では大腸ポリープ、胆管結石、ウイルス性腸炎が多くなっています。大腸ポリープの切除術は内視鏡を用いて行います。術後の経過を見て多くの場合は 1 泊 2 日で退院となります。胆管結石では内視鏡を用い、胆管結石の除去や胆道ステントの留置を行います。これらの治療を行うことで、胆管の炎症などを早期に改善しています。

【糖尿病内科】(全 215 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき 1 カウントとなります

DPC コード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
10007xxxxxx1xx	２型糖尿病　インスリン注射薬あり	66	15.68	13.56	0.00%	64.62	あり
10007xxxxxx0xx	２型糖尿病　インスリン注射薬なし	31	6.32	10.24	0.00%	62.74	あり
030400xx99xxxx	前庭機能障害	11	4.27	4.67	0.00%	57.00	なし
110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症	－	－	13.42	－	－	－
100380xxxxxxxx	体液量減少症	－	－	9.56	－	－	－

解　説

糖尿病の診断群分類はインスリン注射や人工透析の有無で分かれており、当院ではインスリン注射を行う症例が一番多くあります。インスリン治療は高血糖の患者さんに行います。インスリン製剤の自己注射をされている患者さんでも、血糖コントロールを目的に必要に応じて緊急入院する場合もあります。また、意識障害がある場合には早急な治療を要することもあります。他疾患で入院し、その後、糖尿病の精査目的の為に転科する症例もあります。退院前は管理栄養士より、生活スタイルに合わせた自宅での食事量や内容についてきめ細かい説明を行っています。

【小児科】(全 423 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき 1 カウントとなります

DPC コード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
140010x199x0xx	早産、呼吸障害（出生時 2500g 以上）	74	6.30	6.18	1.35%	0.00	なし
080270xxxx1xxx	小児食物アレルギー負荷試験あり	39	1.03	2.10	0.00%	1.92	あり
040090xxxxxxxx	急性気管支炎、急性細気管支炎等	35	4.11	6.20	0.00%	1.49	なし
140010x199x1xx	早産、呼吸障害（2500g 以上）人工呼吸、中心静脈注射あり	33	7.58	10.46	6.06%	0.00	なし
140010x299x0xx	早産、低出産体重に関連する障害（1500g 以上 2500g 未満）	25	14.52	11.97	4.00%	0.00	なし

解　説

小児科では出生直後の新生児が低体重や呼吸障害、低血糖等でＮＩＣＵに入院となる場合が最も多くなっています。令和６年３月よりアレルギー負荷試験を週に一度、日帰り入院で行っており、その症例が増えています。ＲＳウイルス等による気管支炎の症例は１歳未満が多く、重症化しやすい傾向にあり、入院にて治療することで早期に状態の安定を図ります。

【外科】(全 533 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき 1 カウントとなります

DPC コード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
060160x001xxxx	鼠径ヘルニア（15 歳以上） ヘルニア手術　鼠径ヘルニア等	55	4.82	4.56	0.00%	74.04	あり
060330xx02xxxx	胆嚢疾患（胆嚢結石など） 腹腔鏡下胆嚢摘出術等	45	5.33	6.00	0.00%	64.56	あり
060210xx99000x	ヘルニアの記載のない腸閉塞 手術なし	37	6.46	9.07	10.81%	74.19	なし
060150xx03xxxx	虫垂炎 虫垂切除術　虫垂周囲膿瘍を伴わないもの等	30	4.53	5.36	0.00%	43.17	あり
060335xx0200xx	胆嚢炎等 腹腔鏡下胆嚢摘出術等	22	6.73	7.05	0.00%	64.27	あり

解　説

外科では、鼠径ヘルニア、胆のう疾患、腸閉塞での入院が多くなっています。鼠径ヘルニアの手術では腹腔鏡下にて行うものが多く、入院期間も平均５日間という短期間の入院となっています。胆のう疾患では胆のう結石に対しての腹腔鏡下での胆嚢摘出を行う手術が多くなっています。こちらに関しても入院期間は平均して５～７日間と比較的短期間での入院となっています。虫垂炎に対しては虫垂切除術の手術を行っております。

【整形外科】(全 595 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき 1 カウントとなります

DPC コード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
160800xx02xxxx	股関節・大腿近位の骨折 人工骨頭挿入術 肩関節人工骨頭挿入術等	104	21.81	24.75	65.38%	82.01	あり
070010xx970xxx	骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。） 手術あり	67	4.46	4.67	0.00%	49.91	あり
160760xx01xxxx	前腕の骨折 骨折観血的手術	29	7.48	5.86	6.90%	71.31	あり
160690xx99xxxx	胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰髄損傷を含む。） 手術なし	28	14.36	18.99	82.14%	77.75	あり
160980xx99x0xx	骨盤損傷 手術なし	19	17.21	18.59	63.16%	81.00	あり
160990xx99x0xx	多部位外傷 手術なし	19	11.63	15.37	52.63%	71.26	あり

解　説

転倒などによる大腿骨近位部骨折が最も多い症例となっています。治療方法としては骨折観血的手術（固定用材料にて骨を接合する手術）や人工骨頭挿入術を行い、術後にリハビリを施行します。状態が落ち着いたのち、約半数の患者さんがリハビリ継続目的で転院されています。次に多い症例に、当科の特徴として骨・軟部腫瘍の診療があります。手術は良性・悪性を問わず摘出術を行っています。良性の場合は術後数日で、悪性の場合は１週間ほどの経過観察の後に退院となっています。この他、前腕骨折や胸・腰椎圧迫骨折、骨盤骨折などの症例も多く、保存療法や骨折の原因である骨粗鬆症の精査加療も行っています。

【脳神経外科】(全 183 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき 1 カウントとなります

DPC コード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
010060xx99x40x	脳梗塞 エダラボンあり　定義副傷病なし	24	18.67	16.51	37.50%	70.92	なし
010060xx99x41x	脳梗塞 エダラボンあり　定義副傷病（肺炎、尿路感染等）あり	22	34.55	28.21	77.27%	82.36	なし
010230xx99x00x	てんかん	17	2.35	6.63	5.88%	51.35	あり
160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 手術なし	13	7.54	7.84	23.08%	59.23	あり
010040x099000x	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）（JCS10 未満） 手術なし	11	18.27	18.40	54.55%	76.27	なし

解　説

当科では救急搬送からの入院が多く、脳卒中と頭部外傷が大部分を占めています。今回の集計期間においては、脳梗塞にてエダラボンを投与した症例が多くなっています。エダラボンは発症後２４時間以内の急性期脳梗塞のみで適応となっており、素早い搬送のもとエダラボンを投与出来た症例の多くはリハビリ病院への転院を要せずに退院できました。

今回の集計期間において次に多い症例はてんかんとなっており、全国平均と比較しても短期間での退院ができていました。また、脳内出血（手術なし）の症例や脳挫傷などの頭部外傷症例においても、入院期間は全国平均と同等であり、リハビリ病院への転院を必要とした患者さんも少なく、半数以上が自宅退院できていました。

【泌尿器科】(全 651 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき 1 カウントとなります

DPC コード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
11012xxx02xx0x	上部尿路疾患 経尿道的尿路結石除去術	90	4.20	5.16	0.00%	54.43	あり
110080xx991xxx	前立腺の悪性腫瘍 前立腺生検施行	39	2.13	2.45	0.00%	71.97	あり
11012xxx97xx0x	上部尿路疾患　経尿道的尿管ステント留置術	39	2.36	7.14	0.00%	67.36	あり
110070xx03x20x	膀胱腫瘍　経尿道的膀胱悪性腫瘍手術 化学療法あり	38	7.79	6.63	0.00%	73.00	あり
110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症	35	8.06	13.42	5.71%	71.00	なし

解　説

泌尿器科では、尿路結石症や前立腺癌生検、膀胱癌、前立腺肥症、水腎症の症例が多くなっています。尿路結石に対し、経尿道的尿管ステント留置術を施行し、後日改めて経尿道的尿路結石除去術を施行する症例が多く、クリニカルパスを利用し多くの患者は 4～5 日で退院しています。前立腺針生検法は、前立腺癌の診断に頻用される検査法であり、超音波で前立腺の状態を確認した後、1.5mm の針を前立腺に向かって 12～16 ヶ所に刺し、前立腺の組織を採取します。膀胱癌に対しては内視鏡的に悪性部位の切除を行い、手術後すぐに癌の再発抑制のために膀胱内に抗癌剤の薬液を投入する治療を行っています。前立腺肥大症に対しては、内視鏡下に電気メスを使用し前立腺の組織を小さく切り取る手術を行っています。こちらもクリニカルパスを利用し 7 日程度で退院しています。

【婦人科】(全 889 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき 1 カウントとなります

DPC コード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
120060xx02xxxx	子宮の良性腫瘍 腹腔鏡下腟式子宮全摘術等	242	5.88	5.90	0.00%	45.05	あり
120100xx01xxxx	子宮内膜症 子宮全摘術等	78	6.09	6.62	0.00%	41.05	あり
120070xx02xxxx	卵巣の良性腫瘍 卵巣部分切除術（腟式を含む。） 腹腔鏡によるもの等	76	4.97	6.01	0.00%	45.59	あり
120090xx97xxxx	生殖器脱出症 手術あり	75	6.64	7.74	0.00%	71.63	あり
12002xxx02xxxx	子宮頸・体部の悪性腫瘍 子宮頸部（腟部）切除術等	53	2.96	2.90	0.00%	41.92	あり

解　説

主に婦人科良性疾患においては、腹腔鏡、子宮鏡といった低侵襲性の手術を施行し、早期退院・社会復帰といったＱＯＬを大切にしています。また、子宮体癌、卵巣癌においても積極的に加療しています。他にも女性ヘルスケアセンターを立ち上げたこともあり、骨盤臓器脱に関した患者さんが増えてきています。

【産科】(全 243 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき 1 カウントとなります

DPC コード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
120180xx01xxxx	既往帝切後妊娠、骨盤位 帝王切開術等	85	8.20	9.32	0.00%	35.36	あり
120260x001xxxx	分娩の異常（分娩時出血量 2000ml 未満） 帝王切開術等	23	9.39	9.29	0.00%	35.91	あり
120200xx99x0xx	妊娠中の糖尿病 手術なし インスリン注射薬なし	22	2.05	4.14	0.00%	35.86	あり
120170x099xxxx	早産、切迫早産（妊娠週数 34 週以上） 手術なし	17	5.12	6.69	5.88%	31.82	なし
120170x199xxxx	早産、切迫早産（妊娠週数 34 週未満） 手術なし	16	18.38	19.04	12.50%	32.31	なし

解　説

分娩数は減少傾向にありますが、ハイリスク妊婦が増加しています。帝王切開の既往のある方や骨盤位による選択帝王切開は、入院期間が全国平均より短い日数ですが、大きな合併症もなく退院しています。

【眼科】(全 543 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき 1 カウントとなります

DPC コード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
020110xx97xxx0	白内障、水晶体の疾患　水晶体再建術等　片眼	318	1.97	2.47	0.63%	74.81	あり
020200xx9710xx	黄斑、後極変性　硝子体茎顕微鏡下離断術等　水晶体再建術併施あり	67	5.76	5.34	0.00%	69.93	あり
020110xx97xxx1	白内障、水晶体の疾患 水晶体再建術等　両眼	38	2.11	4.24	0.00%	73.05	あり
020200xx9700xx	黄斑、後極変性　硝子体茎顕微鏡下離断術等　水晶体再建術併施なし	24	5.63	5.55	0.00%	68.29	あり
020220xx97xxx0	緑内障　手術あり片眼	20	5.10	4.39	0.00%	68.15	なし

解　説

白内障が全体の 6 割以上と最も多い症例となっています。加齢などにより水晶体の混濁により視力低下となった場合に、混濁した水晶体の代わりに人工レンズを挿入します。患者さんの中には、両眼白内障となり両方同時に人工レンズを挿入する患者さんもいます。2 番目に多く挙げられるのが黄斑変性で、60～70 代の方に多く発症する疾患です。主に、変視（歪視）や中心暗転という形で視力を著しく低下させるという症状が特徴として挙げられます。特に網膜内境界膜上に形成される網膜前膜の症例数が多く、これらの疾患に対して硝子体手術と白内障手術を同時に行う症例が多くあります。最近は、硝子体手術も増えてきています。

【耳鼻咽喉科】(全 209 症例)

※症例数は一患者さんの一連の入院につき 1 カウントとなります

DPC コード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
030350xxxxxxxx	慢性副鼻腔炎	61	7.07	5.74	0.00%	52.36	あり
030230xxxxxxxx	扁桃、アデノイドの慢性疾患	22	9.14	7.32	0.00%	7.50	あり
030240xx99xxxx	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 手術なし	20	4.25	5.60	0.00%	32.90	なし
030250xx991xxx	睡眠時無呼吸　終夜睡眠ポリグラフィー　あり	16	2.00	2.02	0.00%	48.38	あり
030400xx99xxxx	前庭機能障害	12	4.67	4.67	0.00%	67.83	なし

解　説

耳鼻咽喉科では、慢性副鼻腔炎に対しての内視鏡下鼻・副鼻腔手術目的での入院が最も多くなっています。副鼻腔内に腫脹が広がり、入院日数が長くなることもあります。次に多いのが扁桃、アデノイドの慢性疾患ですが、アデノイド肥大を伴う扁桃肥大に対して口蓋扁桃摘出術とアデノイド切除術を行う症例がほとんどです。そして、前庭機能障害のめまいやメニエール病では救急搬送され、症状が強いため緊急入院となる場合が多くあります。